

## 9. 滋賀県 虎姫町立図書館

### 虎姫町立図書館サービス充実支援事業（平成20年度地域の図書館サービス充実支援事業）

#### （1）事業の趣旨・概要

現在、隣接する長浜市等との合併協議が進められており、合併することになれば、地域性や地域のつながりが薄まっていくことが予測される。そこで、地域住民の協力を得ながら、町の過去を知るための地域資料の掘り起こしを行い、虎姫の歴史を体系的にまとめ、あわせて、図書館資料を最大限に活用し、住民の資料要求に応え、ニーズの掘り起こしに努めるとともに、資料と人との結びつきを活性化させ、図書館機能の拡充・深化を行う。結果として、図書貸し出しにとどまらない、新たな図書館の利用促進を図る。

#### ※委託先・図書館の概要（平成20年3月末現在）

委託先	自治体・機関名	虎姫町立図書館
	所在地	〒529-0112 滋賀県東浅井郡虎姫町宮部 3445
	連絡先	TEL 0749-73-2335
		FAX 0749-73-2655
URL <a href="http://www.town.torahime.shiga.jp/">http://www.town.torahime.shiga.jp/</a>		
図書館の概要（平成20年3月末現在）	職員数	4名（うち臨時職員2名／司書3名）
	開館時間	火～金 10:00～18:00 土・日 10:00～17:00
	年間開館日数	289日
	蔵書数	84,218冊
	利用登録者数	4,027人
	年間利用者数	（貸出利用者）11,904人
	年間貸出冊数	44,090冊
運営状況	兼務の館長を含め4人の職員ですべての図書館業務にあたっている。館長以外は司書の有資格者である。	

#### ※地域の現況・特色

虎姫町は滋賀県北部に位置し、町の三方を川に挟まれた豊かな自然に恵まれている町である。旧北国街道沿いの交通の要衝であったことから、国の重要文化財である五村別院をはじめ、歴史的な文化財が豊富である。現在、隣接の長浜市、東浅井郡の湖北町、虎姫町、伊香郡の木ノ本町、高月町、西浅井町、余呉町の1市6町による合併任意協議会により、21年度中の合併を目指して協議中である。

虎姫町立図書館は、教育福祉ゾーン（文化ホール・福祉保健センターとの複合施設で幼稚園・小学校・中学校に隣接）に設置されていることから、授業等における子どもの利用や教職員の利用が多い。

面積：9.45km<sup>2</sup> 人口：5,800人

#### （2）事業の実施体制

事業実施にあたっては、実行委員会とその下部組織として事業別に3つ部会を組織した。

##### ①虎姫町立図書館サービス充実支援事業実行委員会

###### ＜委員構成＞

教育長、文化協会会長、文化財保護委員、おはなしボランティア、学芸員、図書館長、図書館司書（事務局）計7名

###### ＜主な役割＞

事業全般に関する検討

## ②部会

部会の正副部会長は実行委員が務め、その他の部会員は、図書館利用者や公募あるいは実行委員からの声かけで集まった一般町民である。

○編纂部会—虎姫の歴史の編纂 委員構成：学芸員、文化財保護委員、町民6名 計8名

○展示部会—展示に関する企画・運営 委員構成：おはなしボランティア、図書館長、町民3名 計5名

○フォーラム部会—展示に関する企画・運営 委員構成：文化協会会長、図書館司書、町民2名 計4名

## (3) 事業体系

実施した事業は下記の3つである。

①「とらひめのれきし」	i 「とらひめのれきし」の編纂
②企画展「資料が語る虎姫のくらし展」	i 虎姫町に関する歴史的資料の収集 ii 企画展「資料が語る虎姫のくらし展」の巡回展示 iii 座談会「虎姫のなつかし話しゃべろう会」の開催
③フォーラム「図書館サービスにもの申す」	i フォーラム「図書館サービスにもの申す」の開催

## (4) 当事業に取り組んだ背景・経緯

虎姫町には町史がなく、地域資料の収集・保管・提供を行う図書館としてその必要性を感じていた。現在、合併協議が進んでいる中、合併後も自分たちの地域や郷土に誇りがもてるように、次世代を担う子どもたちに過去の歴史が体系的にわかる資料を残したいと考えた。そのための方法として、現在図書館で所蔵している資料と地域住民から提供してもらった資料を活用し、子ども向けの町史を編纂することと、町民が町の歴史を知ることができる展示を行うことを企画した。そのことを通して、地域の情報拠点である図書館として、資料の収集だけでなく、必要なときに必要な情報が手に入るしくみを整え、地域の利用者に還元したいと考えた。また、地域の魅力を再発見できる情報拠点となることを目指した。

## (5) 各事業の内容と現在までの取り組み状況

### ①「とらひめのれきし」

虎姫町の歴史・人物・地誌・民俗・産業等について概観できる子ども向けの町史を編纂し、子どもたちの郷土学習の礎とした。

#### i 「とらひめのれきし」の編纂

部会員：文化財保護委員、虎姫の歴史を知る会、宮部史談会、大井城跡研究会などから、地域の歴史に詳しく、関心のある町民が集まった。

表記対象：概ね小学校4年生～中学生

内容：虎姫町の歴史・人物・地誌・民俗・産業・文化等、虎姫町について概観できるもので、表記は小学校中学年から中学生向きとするが、大人の利用にも耐えうるものとした。

編纂期間：平成20年8月～21年3月

様式：A4判（モノクロ・一部カラー）56ページ 100部

方法：図書館の所蔵資料に加え、新たな資料も収集し、それらの資料をもとに体系的に編纂する。

配布先：小学校、中学校、時遊館、公民館等 ※主に郷土学習に役立てる

#### <作業手順>

○内容についての話し合い⇒基本的な編纂方針の決定

・様々な資料に断片的に書かれている基本的事項をわかりやすくまとめる。

・新たにわかった事実を付け加える。

・子ども向けであることから、郷土への誇りと将来に希望がもてるような事項を優先する。

○原稿の分担を決め、各部会員が各々執筆

○事務局で執筆された原稿を子ども向け（小学校4年生以上）に表記を変更

・易しい言いまわしに変更

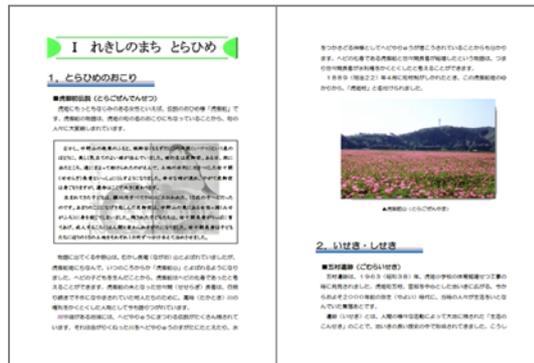
- ・漢字をひらがなやルビ表記に変更
- 原稿を印刷用に編集・レイアウト
- 表紙面の作成依頼—多くの人に関わってもらうことを意図し、部会員以外の町民に水墨画の作成を依頼した。

**【工夫のポイント】**

- 写真を多用し、見やすく、わかりやすいものとした。
- 子ども向けであることを考慮し、郷土への誇りと将来に希望がもてるような記述となるよう心がけた。
- 53項目を5つの大分類に分け、各項目が約1ページとなるようにまとめた。  
大分類—I. れきしのまちとらひめ、II. しぜんのまちとらひめ、III. ぶんかのまちとらひめ、IV. みずのまちとらひめ、V. ひとびとのくらし
- 表紙は素朴な味わいを出すために、趣味で水墨画を描いている町民に依頼した。  
⇒町民の目から見た虎姫の魅力が描かれ、多くの人の関心を引いた。



表紙



中のページ

**②企画展「資料が語る虎姫のくらし展」～川と人のかかわり～**

図書館所蔵の資料や町民から集まった資料を展示し、町内の公共施設、学校等で巡回展示した。

**i 虎姫町に関する歴史的資料の収集**

部会員：町内広報紙、図書館内ポスター等で公募した町民

**<作業手順>**

- テーマについての話し合い

虎姫町は三方を姉川などの川に囲まれ、川と人々の暮らしは切り離せないという理由から、川と水をテーマにした。

- 川をテーマにした関連資料収集の呼びかけ

⇒部会員の所蔵やその関係者への声かけにより、町民から写真を中心とする多くの貴重な資料が集る。

収集した資料の内容：養蚕、田川改修、大水、姉川地震、井堰 等

※この資料収集の過程で、町民の「記憶・思い出」という情報を集めることも有効だということで、座談会の企画が立ち上がった。

- 井堰（水を田へ引いたり流量を調節したりするため、川水をせきとめる所）の写真撮影

町民から井堰の場所を聞き、現状の写真を撮りにいった。

- 展示用資料の作成

・部会員により、手づくりの井堰マップが作成された。

A4サイズに拡大し、ラミネート加工した写真

**部会員作成の井堰マップ**



- ・集まった写真はスキャナーで取り込み、A4サイズに拡大してプリントアウトし、表面をラミネート加工した。

### 【工夫のポイント】

展示に使用した写真は、全写真をそのままA4判2穴ファイルに綴じて閲覧用郷土資料とし、展示終了後に図書館にていつでも手に取り閲覧できるようにした。

※展示期間だけでは見る人が限られるため、最初から後の利用を考えて全写真をA4サイズに統一した。



※掲載の写真は以前に別の展示で使用したもの

ラミネート加工して展示した写真をそのままファイルに綴じ、図書館資料として閲覧できるようにした

### ii 企画展「資料が語る虎姫の暮らし展」の巡回展示

会場は人の出入りが多い公共施設を選定し、各会場のスペースに応じたレイアウトで展示した。

広報・PR：チラシ、ポスター、町内広報紙の図書館だよりのページ、町内行政防災無線

主な展示物：「虎姫町の主な井堰マップ」「田川新旧比較図」「大水写真」「東浅井郡各村絵図」「伊香郡字餅ノ井堰下郷村ヨリ切落一件」、養蚕具

○虎姫小学校 11月13日～11月19日（学校の参観日が含まれる期間を設定）

対象：児童、教職員、保護者など（約260人）

○時遊館（町立のサロンの文化施設） 12月2日～12月19日

対象：時遊館来館者等（シニア層の利用が多い）（約70人）

○図書館 1月10日～1月27日（フォーラム開催日が含まれる期間を設定）

対象：図書館来館者、フォーラム参加者、福祉保健センターデイサービス利用者（約600人）

※生きがいセンター（複合施設の名称）エントランスホールで開催⇒図書館利用者以外も気軽に観覧できた。

○公民館 2月3日～2月13日

対象：公民館来館者（約200人）



学校での展示風景



時遊館での展示風景（養蚕具）



公民館での展示風景



図書館での展示風景

### 【工夫のポイント】

- 展示会場ごとに観覧対象者が異なるため、同じテーマでも対象によって表記を易しくしたり、展示物を変えるなどの工夫をした。
- 展示会場ごとに当該施設の行事や他部会の事業の予定と関連づけて、展示効果を高める期間設定をした。

### iii 座談会「虎姫のなつかし話しゃべろう会」の開催

日時：12月18日

会場：時遊館

対象：虎姫の昔の話を語れる町民（参加者18名）

内容：自分もっている写真・資料を持参し、それを見ながら気軽に昔話をした。

⇒水に関する思い出等を語り合ったが、集落ごとに習慣が異なることなどもわかり、内容の濃い座談会になった。後日、座談会の内容をまとめた記録集を作成する予定である。

座談会の様子



### 【取り組みのヒント】

町民の「記憶・思い出」も貴重な地域資料であることに気づき、それを音声で記録し、文字に書き起こすことで新たな地域資料になるという、新しい図書館の取り組みの開拓にもなった。

### ③フォーラム「図書館サービスにももの申す」

「地域住民の役に立つ図書館」を目指し、資料の貸し出しをベースに様々なサービスを行っているが、それが住民にどれだけ認知されているか、あるいは図書館サービスがどこまで住民の生活の深部に入り込むことができるのかということ、を、「郷土を知る」という観点から、利用者の意見を聴取し、今後の方向性を探った。

部会員：図書館利用者と普段あまり図書館と関わりのない町民も含めて構成した。

#### i フォーラム「図書館サービスにももの申す」の開催

日時：1月25日 13:30～15:15

会場：虎姫町文化ホール

対象：一般住民（参加者50名）

広報・PR：チラシの全戸配布、関係施設でのポスター掲示、町内行政防災無線

## 第1部 講演

演題：「虎姫の歴史概観」～眠らせておいてはもったいない、あんな資料こんな資料～

講師：元長浜城歴史博物館館長

内容：古代から近代までの虎姫町の歴史を概観した。

⇒郷土の未来を考えるためには過去の歴史を知らなければならない。そのために図書館が果たす役割についての話があり、歴史学習と図書館の役割との関係が明確にされた。

## 第2部 パネルディスカッション

テーマ：「図書館って、本を借りる以外に何ができるの？」

パネリスト：元虎姫町教育委員会教育長、図書館利用者代表、とらひめ幼稚園PTA役員、虎姫中学校生徒会長

助言者：上記講演会講師

内容：様々な立場の住民パネリストにより、実際の図書館利用を通しての意見交換を行った。

⇒調べもののため、趣味の読書のため、子どもとの憩いの時間をもつためなど、パネリストの生活に即した図書館の様々な利用の仕方について話された。図書館側の情報発信が利用者に届いていないことがわかるとともに、利用者側から見た図書館の問題点などがフロアからの意見も含めて出され、活発な議論となった。図書館利用者ではない人の参加もあり、利用者も含め、住民に図書館の活用の可能性に気づいてもらうよい機会となった。

### パネルディスカッションの様子



### 【工夫のポイント】

- パネリストの人数にあたって、年代、性別、利用法等が異なるようにし、多様な角度から意見が出るようにした。
- 講演会とパネルディスカッションの2本立てにし、専門的意見と住民利用者の一般的な意見の両方から図書館の利用について考える機会とした。

## (6) 事業の成果・効果と事業実施後の取り組み

### ①事業の成果・効果

事業の主な成果・効果は次のとおりである。

#### i 「とらひめのれきし」の発行について

##### ○住民から大きな反響があった

「とらひめのれきし」発行の際、中日新聞びわこ版に大きく掲載されたことで、住民からの問い合わせが殺到し、関心の高さが実証された。印刷部数が少ないため3冊を貸出し用に設置したが、よく利用されている。また、住民から新たな情報が寄せられるなど、自分たちの歴史は自分たちで残していくという機運が高まり、そのコーディネーター役としての図書館の機能も認知された。小中学校への配布は新年度に入ってからで、今後、子どもたちの郷土学習などにおいて、様々な効果が期待できる。

#### ii 企画展「資料が語る虎姫の暮らし展」について

##### ○身近なテーマ設定・内容の展示で一般町民にも関心をもってもらえた

部会員が専門家ではなかったため、「川・水」という虎姫町民にとってはより身近なテーマ設定・内容での展示となり、一般町民にも関心をもってもらえることができた。

⇒観覧者から寄せられた感想：「今まで井堰というものがあることすら知らなかった」「大水や井落しなど話には聞いていたが写真で見たのははじめてだった」「全体を俯瞰できる地図があってわかりやすい」「他にも井堰あるので、自分の字の井堰も載せてほしかった」

### ○収集した写真が図書資料として活用されている

住民から収集し、展示に使用した写真は、そのままA4判ファイルに綴じて図書資料として一般への貸し出しを開始した。身近な郷土資料として住民に利用されている。

### ○住民の自立的な動きが生まれた

部会員を中心に住民同士の声かけ、口コミで予想以上に様々な資料が集まった。この流れで、当初予定されていなかった座談会が住民の企画により開催されるなど、住民自らが地域の歴史を残していこうという自立的な動きが生まれた。

## iii フォーラム「図書館サービスにもの申す」について

### ○図書館利用者の情報発信の場となった

それまでは図書館利用者が住民に対して情報発信する機会がなかったが、利用者同士が様々な利用法について意見交換する中で、一般参加者も含め、図書館をうまく利用することによって、自分たちの生活がより豊かなものになるということや、一方的に図書館からのサービスを受取るだけでなく、自分たちが声を上げることによって、図書館が自分たちのものになっていくということへの気づきの場となった。

⇒参加者から寄せられた感想：「自分とは違う図書館の利用法を知った」「パネリストの人选がバランス的によかった」「もっと多くの人に聞いてもらいたい内容だった（各自治体の総会等と重なる日程だったので残念）」「会場参加者として私も発言したかった」

### 【成功のキーポイント】

- 3事業を展開する中で、図らずも「将来を考えるために、過去をしっかりと知ろう」という共通認識ができ、その方向で事業に組むことができた。
- 地域のマンパワーをネットワークし、活かすことができた。
- 「とらひめのれきし」の編纂にあたっては、行政主導ではなく、町民自らの手による編纂だったため、個人的な思いが強くなり過ぎないかという懸念があったが、部会員に学芸員という専門家が入っていたことにより、客観的な視点での歴史の記述をすることができた。
- 滋賀夕刊（町民がよく読んでいる地元紙）、中日新聞びわこ版に事業の告知や開催の様子が大きく掲載されたことにより、事業について町民にアピールできた。

## ②事業実施後の取り組み

※平成20年度委託事業のため、省略。

## （7）課題と今後の展望

### ①課題

主な課題としては次のことが挙げられる。

#### i フォーラムで指摘された問題点等の改善

フォーラムでパネリストや参加者から指摘された問題点を地域住民と共有し、改善を図りたい。そのためには、日常の図書館業務の中でも利用者が要望を気軽に言いやすい雰囲気づくりや、職員がそれをきちんと受け止めてくれるという信頼関係づくりが必要である。また、様々なサービスが町民に知られていない実態があるため、待つだけでなく、図書館側からも発信していく必要がある。

#### ii 町民の「記憶・思い出」という形の郷土資料の収集が急務

高齢の方が多いため、情報収集は急ぐ必要がある。

#### iii 活動の広がり職員体制の問題

地域の情報収集・発信などにおいて、様々な活動の広がりが期待できるが、その活動を継続・発展させていくためには、現在の職員体制（兼務の館長を除くと3名の職員）では難しい部分がある。地域のマンパワーと連携・協働していく具体的な方策を考える必要がある。

## ②今後の展望

今後は次のことに取り組んでいく予定である。

### i 当委託事業で収集された資料等の活用

- 展示で作成した井堰マップは小学校に寄贈し、郷土学習で活用してもらおう予定である。
- 収集した写真を整理し、冊子にまとめた。
- 「とらひめのれきし」に掲載できなかった項目を別冊にまとめた。
- 視覚に訴えるものは効果があることがわかったので、図書館で定期的に様々なテーマで展示を継続していきたい。
- 過去の新聞記事も地域資料になるので、整理して利用できるしくみづくりを行っていきたい。

### ii 当委託事業で構築できたネットワークの活用

今後も情報を収集し、資料の拡充を図る必要があるが、その際、当委託事業で広がった人的ネットワークを活用し、住民と協働で進めていきたい。また、住民から収集した情報は、それを形にして住民にフィードバックしていく必要がある。これを繰り返していくことが郷土資料の充実につながると考えている。